

記念日のいわれ No.3

5月1日…メーデー（Dia Mundial do trabalho）

日本でも、メーデーの名前で知られている国際的な労働者の記念日。

1886年5月1日、アメリカ・シカゴを中心に8時間労働制要求（8-hour day movement）の統一ストライキを行ったのが起源です。そのストライキは、「第1の8時間は仕事のために、第2の8時間は休息のために、そして残りの8時間は、おれたちの好きなことのために」を目標に行われました。アメリカとカナダの労働者34万人がシカゴで大規模なデモを行い、警察はこれを防止しようとして衝突、多数の負傷者を出しました。労働者は3日後、大会を開いて警察に抗議したのですが、これを解散させようとした警察と再び衝突。この時爆弾で警察官一人が死亡したことから、リーダーと見られる7名が逮捕されて、うち1人は自殺、4人が死刑となってしまいました。1889年パリで開かれた「第2インターナショナル」という会議で、この日を「万国の労働者の団結の日」として定め、以来各国で労働者の行事が行われるようになりました。ブラジルでは、1925年から国定祝日に加えられています。



（ブラジルにおけるメーデーの活動…1942年ごろの様子）

話は変わって、ブラジルの祝日は特別な場合や法律で決められた職業を除き、休業することになっています。そして、国定祝日と臨時祝日と大きく二つに分けられます。国定祝日は1949年に法律によって定められたもので、臨時祝日は大統領や州知事、郡・市長によりその都度発令されるものです。とはいえ、この臨時祝日はほぼ毎年恒例となっていて、その日が来るとほぼ全てが発令されているようです。1925年頃は、国定祝日と臨時祝日をあわせた休みが、1年のうち約1ヶ月にもなるところができて、あまりにも多すぎると言うことで近年次第に数が減ってきています。

ちなみに5月1日はブラジルの国民的英雄、F1ドライバーの「アイルトン・セナ」がイタリアのイモラにあるサーキット場で事故死した日でもあります。1994年の事故はあまりに衝撃的でした。彼の遺体は国葬に付され、サンパウロのモルンビー墓地のプレートの下で安らかに眠っています。音速の貴公子と呼ばれて、日本のファンも多かった彼の墓には緑色のジュータンが敷かれ、今でも追悼に訪れる人の献花が絶えません。